

国指定史跡 上神主・茂原官衙遺跡の時代

上神主・茂原官衙遺跡を

古代の体感と交流の場へ

上神主・茂原官衙遺跡は、平成7年度から平成14年度までの8か年に及ぶ発掘調査の結果、古代の地方の役所の具体的なあり方を示し、主要な交通路との関係を考える上でも重要であることから、平成15年8月に、上三川町で初めての国指定史跡となりました。

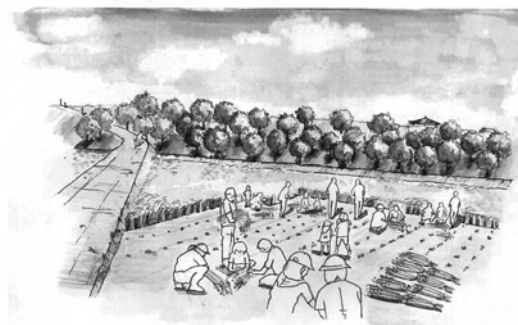
史跡指定を受けて上三川町では、恒久的な史跡の保存のために平成17年度から公有化事業に着手しています。また同年には、今後の保存・整備・活用事業の指針となる基本理念・基本方針・活用方策の検討を行い、遺跡保存整備を策定しました。今回は基本構想に基づき、上神主・茂原官衙遺跡の今後について、説明いたします。

上神主・茂原官衙遺跡を貴重な文化遺産として活用するにあたっては、遺跡を保存することが最も重要になります。その上で、古代の郡役所というものを体感できる史跡整備を進めます。具体的には、発掘調査によって明らかになった建物跡を、平面表示・屋外模型・新たな表現方法などを用いて復元します。この復元のためには、今までの発掘調査で得たデータでは足りない点があることから、現在も発掘調査を続けています。復元と並んで目玉になるものとして本遺跡の特色・歴史背景を学ぶための情報提供施設（資料館等）の設置があげられます。全国に類を見ないほど出土してい

る、人名文字瓦の展示や古代米の耕作といった体験学習を行うための拠点とします。

近年、上三川町では徐々に平地林が姿を消していますが、本遺跡は指定面積の大部分が平地林であり、失われつつある里山の風景が残っています。整備にあたっては、山林の伐採を最小限に留め、自然に触れ親しめる各種体験学習を展開することも考えています。

基本構想であることから、まだ概略しか決まっていますが、今後は多くの意見を取り入れながら、住民協働による整備・運営や、多くの方々に参加し、楽しみながら学べる活用メニューとイベントを実施し、歴史学習の場だけではなく、新しい地域交流の拠点として、親しまれるような史跡公園の整備を目指します。



耕作体験など様々な体験学習を展開します

たね川柳

岡島秀宝 選

気まぐれに卵をくれるうこつ鶏

三村 上野久美子

日向ぼこ特等席は猫のもの

大町 小口 達子

お茶の間をおまつりにする花の数

石田 高橋 世津

マスクして美人になった目がきれい

上町 上野 広江

転んだら転んだままの日曜日

石田 前原 秀雄

梅もどき小鳥のエサになって消え

上蒲生 鶴見 敏子

裸木になると人間まで寒い

石田 森山 アイ

その先の約束などは出来ぬ齡

上蒲生 菅原 妙子

